

平成25年度 第2回八幡市子ども・子育て会議 議事録

日 時：平成25年12月25日（水）午後1時30分から

場 所：八幡市役所 分庁舎2階会議室A、B

1 開会

(事務局)

- 資料確認

2 アンケート集計結果について

(会長)

アンケート集計の結果についてご意見をいただくということで、結果について何かご意見やご質問がありましたら、ここであげていただければと思います。いかがですか。

データが多く、私自身、まだ見切れていない部分もありますが、お気づきの点等、見ていただいた範囲でありましたら出していただければと思います。

結果以前の回収状況ですが、この手の調査で、これだけ分厚い冊子のわりには幼稚園、保育園の協力があつたとは思いますが、非常に高い回収率だと思います。逆に考えると、6～7割の回収率ですが、残りの3～4割の出せていない方の状況も結構大事かということも考えながら見ていく必要があると思います。アンケートを出せる人は、それなりに余裕がなければ、こんなに分厚いアンケートを書くことはできないと思います。回収できなかった方々は余裕のない状況にあるのかもしれないのかと考えつつ、このデータの結果を見る必要があるのではないかと、全体として感じました。それぞれは、貴重で詳細なデータだと思いますので、中身をしっかり見ていくことが大事だと思います。

感想でも結構です、何かありますか。

(委員)

私も、小学生と幼稚園児を持つ保護者ですが、今、会長と同じことを感じていました。小学生用の設問で、「子どもが何かいいことをしたときに「よくやったね」「がんばったね」などといって、ほめること」という設問に対する答えで全体1,208名のうち、786名の方が、「十分足りている」ということは、普段から子育てのことに積極的に取り組んでおられて、子どものことを一番に考えて生活できる方が多く答えているのかと思いましたので、会長同様、ここに出てこなかった方の思いが、どれだけつらい思いをされている方がいるのだろうと心を痛めました。

(会長)

ありがとうございます。よくがんばったねとほめる家庭が6割5分です。このデータは熱心な保護者の方々の状況が読み取れることですが、一方で、そうではない家庭の状況をどこまで把握できているかわからない部分もあるかもしれません。調査の限界だと思いますが、そのことを踏まえつつ進めていく必要があるかと思っています。

(委員)

今のお話を受けて、回収率が高く、きちんとした仕組みの中で回収されたということは、嘘をつくわけではありませんが、先生が見るかもしれないと、よく見せたいという心理が働き、10回のうち、1回であっても理想的な答えを書く場合があると思います。アンケート調査の結果がすべてではなく、そのような思いが働いた上での調査結果かもしれないという含みを持たせないと、5～7割の人が取り組めていられると見てしまうのは表面的な判断かと感じます。しかし、意欲としてそう見せたい思い、教育に対して熱心な思いがあることはいえると思いますが、答えそのものは鵜呑みにできないと思います。これだけのアンケート調査を書いているわけですから、それだけ高い意欲、熱心な思い、それとは裏腹に悩みも大きいのではないかという気がします。

(会長)

ありがとうございます。一理あるご指摘だと思います。理想的な答えを書いてしまうという部分も、このような調査ではありがちなので、それも考えつつデータを見ていく必要があると思います。

(委員)

地域で民生委員をしていますので、実数が出てくると関心があります。

就学前児童用の父親のひとり親家庭の実数や10代の母親は0とありますが、父親が19歳以下はこれだけいるのかと思いました。このアンケート調査の結果をどのように見て、どのようなところで活かしていくのか、気になるところです。

(会長)

ありがとうございます。就学前児童用で、10代の母親は0.3%、父親が1.0%で父親の方が多ということですが。全国的にはどうか、これは、調査に回答された方のデータですが、八幡市全体の国勢調査的なデータはとれませんか。

私は、こんなに少ないのかという印象を受けました。もちろん、地域によると思いますが、もう少し高いと思っていました。全体のデータがあれば、このデータと比較して、無作為抽出でサンプリングされていると思いますが、回答者がどうなっているか、サンプリングの段階と違うと思いますので、もし分かるのであれば、子どもを持つ親の年齢階層があれば、今回の回答者の状況と全体の状況の比較ができると思います。それは他の項目にもいえると思います。親の年齢ということでそのような印象を持ちました。

(委員)

10代の方が多いということですが・・・。

(会長)

経験的なものですが、聞く範囲でも最近増えていて、すでに離婚しているパターンです。そのような家庭は相当厳しいと思いますので、もう少し増えてきているのではないかというのは憶測の範囲です。

(委員)

母親は0.3%でした。記入した方は父親の方が多いのですね。

(アドバイザー)

国勢調査で確認したら、父親の19歳以下は1.7%なので、少しこの市は低めという

ことです。会長の言うとおりに、10代の父親、母親はここ10年くらいで倍増くらいにはなっています。

(会長)

早速データをいただき、ありがとうございます。あまり変わらないですが、この回答では全国的な平均からすれば、少し低めですね。

その他ありますか。

(委員)

就学前児童用の「あなたにとって望ましい子育て支援施策は何ですか」という間について、経済的に負担がかかるイメージがあります。小学生用にも同じ間がありますが、うちにも小学生と保育園児の子どもがいます。年齢も遅くに結婚しているので、この先子どもが大きくなったら、お金がどれくらいいるのか、先が見えない状況です。

アンケートを見ると、皆さんそのようなところが不安のようです。他には、安心して遊べないところが多いなど、怖いというイメージが人数的に多いと感じました。

(会長)

ありがとうございます。

他の間を見ても経済的な負担がすごく大きいと感じます。私自身も子どもがいますので、どれだけお金がかかるのか不安だということは常にあります。経済的な負担をどう軽減していくか、大きな課題だと思います。

関連する色々な間に対しても、経済的な問題はパーセンテージが高い印象を持ちました。

安心・安全な環境づくりの整備についても結構高い数値になっていますので、このあたりが重要な施策になるのではないかと思います。

(副会長)

小学生用の奉仕活動、ボランティア活動の部分の重要度と不足度を見ると、社会が子育てをするときに、地域社会が非常に大事だということは感じとられるのですが、かといって、自分がボランティアに出て何か社会のために活動する、行動する部分が認識的に低い結果が出てきています。「してほしいけれども自分でするのは嫌だ」というような結果ではないかと思います。

八幡市では色々な施策を取り組みしています。教育支援センターの教育相談や子育て講座等色々ありますが、その間に対して「知らない」「参加されている方が少ない」という部分があります。色々な施策があっても利用されていないという課題です。そうしたときに、情報をどこで得ているか、多いのは、八幡市の広報、インターネット、友人からの情報となっています。情報の発信の仕方、子育て世代の方にどのように周知、徹底するかということが課題になるのではないのでしょうか。

(会長)

ありがとうございます。地域社会の重要性は皆さん頭では理解されていますが、実際自分がやるとなるとやれない、わかる気もします。そこははっきりと重要度と不足度の数値に出ているということは、問題のあり方が見えてくるということですが、地域関係や奉仕活動関係で不足していると感じている人は多くおられると思います。そこをどう参加を促していくかが難しいところですが、大きな課題だと思います。強制

的に開催している講座等、知らない人が多く、参加者が少ないということが問題点です。広報を見ている方が多いので、広報にどう分かりやすく書いていくか、今までも書いていると思いますが、伝わりきれていないということでしょう。発信の仕方を、広報の中でどのように工夫していくか、インターネットも工夫されていると思いますが、電子メディア系の情報発信についても工夫が必要かと思います。

その他ありますか。今までの委員の発言に対してでも結構です。議論を進めていけたらそれはそれでいいと思います。

今回は単純集計であり、これに基づき、色々な集計の工夫がなされて新たな結果が出てきていますので、そちらでの議論も必要となります。単純集計についての議論はこれくらいにさせていただき、次のテーマに進みたいと思います。

(副会長)

1 問目に校区ごとに分けてありますが、それぞれ校区ごとの集計は出てきませんか。

(事務局)

集計はできますが、データとしての信憑性があるかどうか、サンプル数が、9 校区に分割することによりデータそのものが信頼ある数字になるかということ、疑問で、傾向として見てもらうことは可能です。今回、各小学校に協力していただいていますので、校区ごとの提示はするつもりですが、それが信頼性の高い数字かということと学校により疑問符が付くことを踏まえた上で、活用なり、検証をしていただきたいと思います。

市全体でいえば、サンプル数は 1,000 件を越えているので十分な信頼性があります。終わりの方にはリスク家庭を想定した質問を設定してありますが、当初予定していたよりは回答者数が少ないように思います。対象の人達は回答していないと想定できますので、実際に実態を表していると市全体ではいえると思いますが、校区ごとでは弱いかと思う数値が出てくると思います。まだ、校区ごとの数値はあげていませんが、そのようなイメージを持っています。

(会長)

集計はすぐできますよね。数が少ないので、どこまで一般的な数値になるのかと思いますが、学校ごとの単純集計は学校にとっても重要なことだと思います。公表するかどうかは別として、各学校には渡されるべきものだと思います。

次のテーマ、現状分析、この結果に基づいて分析を進めていく考え方及び結果の一部を事務局から説明をお願いします。

3 現状分析の考え方について

(事務局)

- 「子ども・子育て支援事業計画策定にあたって現状分析の考え方」について説明

まずは、「子ども・子育て支援事業計画策定にあたって現状分析の考え方」にて説明させていただきます。今回の会議で皆さんに議論していただきたい点について抑えていきたいと思います。

今回の計画にあたり、「子どもにとって八幡市の良質な養育・保育・教育による子育て環境づくり」ということを大きく目指す形として掲げています。これに向けて八幡市として、何をしていかなければいけないのか、何が必要なのかについて今後議論し

ていかなければいけません。その上で、今、八幡市の子ども・子育てに係る部分で足りないもの、目指す形に向かうために必要なこと、必要になっていくこと、また、八幡市のいいところが出せていないというところがあると思います。そのようなところを探し出し、それを新たな取り組みにつなげていくことが必要だと思います。今、何が必要なのか。今、何が問題なのか、ということについてアンケート結果等をお示しさせていただいていますので、仮説でもいいので、問題点、現状、必要なこと、伸ばしてほしいところなどをご提示していただきたいと思います。また、課題点についてご提案いただきたいと思います。そのようなことを今回の会議のテーマと考えていますので、お願いします。その前提条件として、「1 子ども・子育てを取り巻く背景」として全国的な問題・課題がある中で、「2 八幡市の子ども・子育てを取り巻く現状・問題」で、4つの項目をあげています。

「1、家庭での養育・教育力の低下」ということで、しつけの問題、教育の問題、子どもの発達の問題について、教育は難しいということ。「2、地域の教育力の低下」ということで、地域が子育てに対する支援、また地域と子ども達との接点が乏しいということがあげられています。「3、支援が必要な子どもの家庭が増えている」ということで、いじめや不登校も含めて、支援が必要な子どもや家庭が増えてきているということ。「4、保育環境の充実が求められる」ということで、子どもが減少している現状であっても、保育の充実は地域により多かったり、少なかったりする現状があります。子育て支援に対するニーズも多くあります。その点も含めて、今の子ども・子育てを取り巻く現状・課題を踏まえていくこととなります。

「3 他市との比較による八幡市の子ども・子育て環境の特徴」では、他市は八幡市と違う部分があります。今回のアンケート調査を含めて、これから検証を進めていきたいと思いますが、そのようなところからみても八幡市の特徴が出てくると思います。

「5 現状分析による課題の仮説検証」で、そのようなことを踏まえながら、何が問題なのか、何が必要なのかということについて考えていきたいと思います。その前提条件として、アンケート調査を組み立てていく上で「子育て肯定感」「発達力の積み上げ」「ポジティブな養育力」という3つの視点をあげました。この3つの視点は今回の小学生用のアンケートの設問にも含まれています。この3つの視点を基に八幡市の子ども・子育ての環境について、どのようなことが問題になっており、どのような原因によるかについて考えていただきたいと思います。

それについて考えるために、「5 現状分析による課題の仮説検証」で、先ほどあげた現状問題の4つの項目で仮説をあげさせていただいています。仮説については検証中で、成り立つかどうかは今後検証していきたいと思いますが、皆さんはどのように考えますか、と考え方の参考としてあげています。

「1 家庭での養育・保育力」について、子育てを楽しく感じている家庭には問題ないということ、子育てに対して肯定感を持っている家庭では、活発な子が多く、健全に育っているのではないかと思います。夫婦間が上手くいっていると、子どもの発達に問題がないということ、やはり夫婦関係が子どもの発達において重要なのではないかと仮説をあげています。「2 地域の教育力」については、地域との付き合いが多いと、子育て肯定感が高まっています。「3 支援が必要な子ども・家庭の増加」につ

いては、0歳、1歳等のまだ保育園や幼稚園での友達のつながりが少なく、家庭を支えてくれる人が少ない家庭ですと、周りの支援がなく、逆に支援を求めることも少ないのではないのでしょうか。支援を必要としている子どもの家庭かどうかということでは、ひとり親家庭や若い親の家庭において、子どもの発育に対して不足している部分があるのではないかと、1歳、2歳児の家庭で問題を抱えていることが多いのではないかとという仮説をあげております。「4 保育環境の充実」については、子育て世代が多い地区では、特に未満児の保育ニーズが高いのではないかとという仮説をあげています。

このような仮説をあげながら検証して、要因は何かを掘り下げて考え、本質が分かれば解決に向けて改善していき、より良い子育て環境づくりができると思います。今後の実際の取り組みにつなげていくためにも、やはり本質を探ることが重要だと思います。

皆さんには今回のアンケートを色々と見ていただいておりますが、「子育て肯定感」「発達力の積み上げ」「ポジティブな養育力」という視点で見たときに、問題や仮説、新たな課題などのご提示がいただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。仮説に基づく、色々な課題が列挙されていますが、既にあげられているものに対する意見や、八幡市としてこのような課題があるのではないかとというようなことなど、仮説に縛られない方がいいかもしれません。八幡市の子ども・子育てに関わる課題について自由に発言していただいた方がいいと思います。勿論、仮説についてのご意見、ご質問でも結構です。よろしくお願いします。日ごろ感じている課題で結構です。

次の結果を説明していただいている方がいいですか。

結果をまず説明いただいて、結果からみえてきているものがあるはずなので、それを踏まえて皆様からの意見をいただくということにします。

結果の説明をお願いします。

(事務局)

- 「外的資産、内的資産の重要度と不足度の相関関係の分析結果」「ポジティブな養育力の重要度と不足度の相関関係の分析結果」について説明

それでは、「外的資産、内的資産の重要度と不足度の相関関係の分析結果」及び「ポジティブな養育力の重要度と不足度の相関関係の分析結果」について続けて説明させていただきます。

今回実施したアンケートの小学生用で「発達力についての重要度と不足度」と「ポジティブな養育力の重要度と不足度」として、お聞きした内容をまとめました。

小学生用のアンケートの問26で、幼児期を振り返ってもらい、子どもがまわりの世界から受け取る好ましい経験（外的資産）の20項目について、重要度と不足度を聞いています。問27は子どもの好ましい成長・発達を反映する特性や行動（内的資産）の20項目について、重要度と不足度を聞いています。各項目について「とても重要だと思う」「重要だと思う」「重要だと思わない」の3段階で聞いており、それを点数化し、「とても重要だと思う」という項目を3点満点とし、点数が高ければ重要度が高い、不足度が高い、点数が低ければ、重要度が低い、不足度が低いという結果です。事例

として「1 家庭の支援」は、不足度が 1.34 点、重要度が 2.84 点という結果がでています。また、国立教育政策研究所が実際に実施した結果が同様にあります。こちらの対象は、指導者や教育の関係者等です。今回の八幡市の対象は保護者自身で対象者の違いが大きくありますが、その結果を参考とさせていただきます。結果として伝えたいのは、重要度が非常に高く、不足度が低い項目が「1 家庭の支援」ということで、保護者自身が子どもの成長にとって非常に重要と考えており、それについては十分に環境が整っているという結果が出ています。逆の結果として、「8 奉仕活動」があります。これについては、重要度が他より低く、不足度が高くなっています。奉仕活動については、他に比べて重要ではないと思いき、また、不足している項目としてあがっています。そのような形で見ていただければと思います。内的資産の「40 読書の喜び」については、不足度が高くなっています。子どもにとって十分できていない、そのような環境でないということだと思えます。国立教育政策研究所と比較すると、八幡市は全体的に左肩上がり、国立教育政策研究所は全体的に右肩上がり大きな傾向になっています。八幡市の場合、重要だと思うものは充足しているが、国立教育政策研究所の方では重要ではあるが取り組めていないという傾向があり、大きな開きがあります。

また、不足度は、裏返せば満足度ということになりますが、今回の不足度の選択肢は、「1 不足している (3 点)」「2 やや不足している (2 点)」「3 十分足りている (1 点)」という 3 段階になっています。1、2 は、不足的な要因で、3 が足りているということなので、「不足している」から「足りている」の間、整数で言うと 2 点と 1 点の間、1.5 点くらいが不足している切れ目だと考えられます。八幡市の不足度の平均点が 1.69 点で、不足している切れ目の 1.5 点に近い値を示していますが、対して国立教育政策研究所を見ると、不足度の平均点が 2.48 点であり、この結果と比較すると、八幡市は非常に満足しているというものが多という傾向があります。その辺が大きな違いだと思います。今後、もう少し分析を深めていかなければならないと思いますが、今は単純な結果から見た傾向ということで、皆様のご意見をいただければと思います。

次に、ポジティブな養育力の重要度と不足度の相関関係の分析結果であります。こちらについても、小学生用のアンケート調査、問 28 でポジティブな養育の項目として 20 項目あげていました。実際に幼児期を振り返ってもらい、子どものときの接し方について、重要なこと、不足していたことを聞き、その結果を先ほどのように点数化したしました。

一つ、誤解されないように注意点があります。八幡市の各重要度の平均点及び不足度の平均点で 4 つのエリアに分類しています。この分類については、あくまで平均点を見て、八幡市の結果が「高い」「低い」を表すものであります。実際に「13 うつぶせにして運動をうながすこと」は、エリアの中では一番下の方にあるため、重要度は低いということになりますが、点数を見ると重要度は 2.18 点で、選択肢でいくと、「重要だと思う (2 点)」より高い項目です。重要であると考えている項目ではあるが、八幡市全体から見ると低いということで、単純に重要度が低いと思われる勘違いになりますので、全体的に保護者は 2 点より高いということは「重要だと思う」と考えています。不足度についても、同じように「19 本を読んであげているときに、子どもに

本を触らせたり、めくらせたりすること」は不足度が高い項目となっていますが、不足度は1.51点と先ほどの不足している切れ目の1.5点に比べて近いところにあります。他に比べれば読書については、不足している部分だと感じているが、全体的に「十分足りている」に近寄っている意識ではあるという傾向だと取っていただければいいと思います。その点を含めて、結果として出ています。

実際に育児にかかっている人もみえますし、教育における専門家の方もみえますので、感想でもいいですので、ここから何がみえるかについてご意見がいただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。たくさんの数字が出てきました。今日始めて出てきた資料でもありますので、皆さんも分からない部分もあるかと思いますが、まずはご質問を出していただければと思います。何かありますか。

外的資産、内的資産は、少し難しい言葉ですが、最初の会議のときに簡単な説明をさせていただいたと思います。子どもの発達に必要となるだろう外的資産は、家庭や地域、学校などの環境です。内的資産は、子ども自身がどのような力を身につけていくか、どのような規範を身につけていくか、また子ども自身の内的なものと分けられています。そのようなものの重要度、不足度について保護者の方に聞かせていただいた結果です。読み取りが難しいですがいかがですか。

国立教育政策研究所の調査は教育関係者の回答ですが、保護者の思っていることと違います。保護者の方は比較的重要であることは、十分で不足はないと答えている方が結構多いということですが、八幡市の結果で目立つことは、奉仕活動で、「家族が子どもとともに奉仕活動を行なう」という項目について、重要度も不足度も高いということが飛びぬけています。読書に関しても単純集計の結果、読書については不十分だと思っている人がかなり多く、他に比べて飛びぬけています。これは結構重要なことだと思います。この結果から特徴が見えてくるという説明がありましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

(委員)

読書の件ですが、幼稚園の先生方は、良くご存知かと思いますが、八幡市は読書に力を入れていると感じます。橋本小学校でもさくら小学校でも、子ども達の読書の量には力を入れていますし、学校司書が常駐するようになったことが、子ども達が読書に関心を持つことの一因ではないかと感じています。しかし、中学校に行くと、子ども達の習慣がそがれているのではないかと思います。男山第三中学校では、先日構内の改修も終わりました。改修前の図書館と改修後の図書館を見せてもらいましたが、中学生の子が関心を持つだろうかと思うほどお粗末でないかと思います。量を読めばいいわけではなく、それぞれの子どもの内的なふれあいを、読書を通して行なうものであれば、質が問題になると思います。親の満足度と教育の図書を充実させ、ハードの部分も良くなっていったというものがみえてくるのは、ある程度年月が経ち、蓄積されていくものなので、1、2年で親の意識の中に現れてくるものかと考えさせられ複雑です。

(会長)

八幡市は、小学校で学校司書が専門に司書の仕事をされているということですが、非常に重要だと思います。私の在住の自治体も長くやっていますが、専門に行なうため、貸し出しだけでなく本の紹介や、子どもの対応をしてくれるため、本を借りることを越えた何かがあると思います。いつごろから始めましたか。

(委員)

2年目です。

(会長)

それでは結果がでるまでにもう少し時間がかかりますね。今回の結果では、はっきりとは現れていないということです。

(委員)

しかし、重要であることは認識しています。

(会長)

点数は低いですが、2点を越えています。起点が0ではないので、偏りが見えにくいかもしれません。相対的に重要度が低くなっていますが、数字で見ると2点を越えているので、決して低くはないと思います。

小学校から中学校になると読書をしなくなってくるということで、その時期の施設がお粗末だというご指摘ですが、これからの課題になると思います。私の住んでいる地域は、小さいところなので、小中全学校に司書を配置していますので、中学校にも学校司書がおり、子どもたちは学校図書館に行くことを楽しんでいると聞きます。中学校にもっと力を入れていく必要があると思います。読書については、子ども読書推進に関する法律がありましたね。その他なんでも結構です。数値に関わりのないところからの意見でも結構です。

(委員)

アンケートの集計を見ながら就学前の小さな子どもを抱えている方は、子どものしつけや将来の養育費を気にかけており、子どものしつけに関して、「困っている」「悩んでいる」など回答数がとても高いです。保護者のことであっても、「自分のやりたいことができない」「子どもを叱りすぎている」ということも非常に高いポイントで抱えています。それが、小学校になると「十分ほめていることができている」「十分子育てを楽しんでいる」と自信を持っています。悩んでいたはずが、どこでこの自信をつけたのか、幼いときの方が、子どもは言うことを聞きます。どこで自信をつけたのか不思議に思います。これだけのアンケートを取ったので、関係性や裏付け的なものをデータとして拾えればもう少し具体的に、どのような傾向があるのか、大きな課題があるのではないかと感じます。また、不足度に関しても、大人になって影響する所属感や人生の目的に対して、重要度として2.19点や2.61点は、いいとして、不足度が1.33点、1.47点とあまり不足していないと判断されているということは、幼い時期にどのような教育をされ、人生の目的について語られたのか、所属感が十分ということは、認識として違うのではないかと想像できると思います。所属感や人生の目的等は、生涯かけて育てていかなければいけないものだと思いますし、生涯かけて育てていくものだという認識を子どもにしつけていかなければいけないと思うと、少し低いと感じま

したので、関係性をもっとつなげてほしいと感じます。

(会長)

ありがとうございます。幼児期と小学生になってからの子育ての経年比較ができるようなデータなので、そこを見た方がいいというご指摘です。具体例としてのしつけの話はおもしろいと思います。どこで自信をつけたのか、確かにそのとおりだと思います。経年比較をしていくと、疑問に思うことがもっとでてくるのではないのでしょうか。小学生の親が幼児期の子育てを思い起こして今の子育てとどう比較しているのか、またもう一つは就学前の親と就学児童の親の意識がどう違うのかを比較をしてみると色々なことが見えてくるかもしれません。今は、別にデータを見ていますが、比較をしてみると新たに見えてくることがあるのではないかと、分析の手法の一つだと思います。その他いかがですか。

色々な資料が出てきていますが、もう一つの資料も説明していただき、最終的に全体で議論する方がいいかと思いますので、先に説明していただきます。

(事務局)

○ 「育児不安の要因について」について説明

先ほど子育て肯定感や発達力等をあげましたが、それ以外で育児不安について説明させていただきます。育児不安の要因は、アンケート調査の就学前児童用のアンケート調査結果を基にまとめています。

育児不安について、「子育てが辛い」「困っている」等の、4つのタイプに分けています。「タイプ1 育児についての不快感情」、「タイプ2 子どもの成長・発達についての不安」、「タイプ3 母親自身の育児の能力に対する不安」、「タイプ4 育児負担感・育児束縛から生じる不安」ということで、タイプ別に見たときの、子育て不安感を持つ原因は何か考えていく上で、アンケート調査項目の結果を見ながら仮説を立て、実際に仮説が成り立つかということをもとめました。

「クロス項目からみえる4つの視点による育児不安の要因の仮説」ということで結果を説明させていただきますが、育児不安の要因を探る上で、4つの視点を立てました。それが、①子どもの特性、②母親の意識・価値観、③家庭関係、④社会的支援です。このような視点で仮説を立てながら検証しました。

例として、「タイプ1 育児についての不快感情」について、②母親の意識・価値観では、「子育ての相談者がいないと、子育てをつらく感じている」という仮説を立て、逆に相談者がいる人ほど子育てに関して負担と考えている人が少ないということがいえるのではないかと考えます。③家庭関係については、「父親の協力が少ないと感じていると子育てをつらく感じている」という仮説を立て、逆に父親の協力があると子育てに対する不安が軽減されているということがいえるのではないかと考えます。④社会的支援では、「近所付き合いが少ないと子育てに不安を感じている」ということで、逆に、地域との関わりが子育ての部分でより影響があるのではないかと考えます。

「タイプ2 子どもの成長・発達についての不安」について、①子どもの特性では、特に年齢で見たときですが、「0～2歳児の保護者で子どもの病気・発育に不安を抱えている場合が多い」という仮説を立て、3歳～5歳の子を持つ保護者に比べて、0～2歳の子を持つ保護者の方が不安は多いと考えます。②母親の意識・価値観では、同じよ

うに「0～2歳児の保護者で子どもの病気・発育に不安を抱えている場合が多い」という仮説を立て、子どもの病気や発育に不安を感じている人ほど子育ての負担感が多く、病気や発育の部分が子育ての部分で重要になる要素があると考えます。また、「インターネットで情報収集している人ほど子どもの病気・発育に不安を抱えている場合が多い」ということで、逆に不安を抱えているから調べているということもあると思いますが、そのような状況になっています。同じように「育児書を読んでいる人ほど子どもの病気・発育に不安を抱えている場合が多い」という傾向が出ています。

「タイプ3 母親自身の育児の能力に対する不安」について、②母親の意識・価値観で、「叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかと思う人ほど子育てをつらく感じている」ということで、逆に子育てをつらく感じているからこそ、そのような行動になるともいえます。③家庭関係で、「父親の協力が少ないと感じている人ほど、子育てをつらく感じている」ということで、タイプ1と同じような傾向があります。④社会的支援では、「保護者同士のつきあい、交流が難しい人ほど、育児方法、しつけ、接し方に不安を感じている」という仮説を立て、逆に保護者同士の付き合いや交流がある人は、育児方法に対しての不安が少ない傾向であるといえます。

「タイプ4 育児負担感・育児束縛から生じる不安」について、②母親の意識・価値観で、「自分のやりたいことができないと感じている人ほど子育て負担感が強い」ということがあり、③家庭関係では、「父母ともに子育てを担っていないと子育て不安感が強い」ということで、ひとりで子育てをしていると子育てに対する不安感が強い傾向があります。子育てを主に母親が担っている方は、自分のやりたいことができないと感じている人が多いということで負担に感じている傾向が出ていました。これがアンケート結果から見た結果ということで、相対的に見た要因でこのようなことが考えられるのではないかと、結果として検証してみた結果ということでまとめさせていただきました。色々な考え方があると思いますので、このような考え方や出てきた結果に対してご意見がいただけたらと思います。

(会長)

ありがとうございます。「育児不安の要因について」ですが、就学前児童用の保護者の結果に基づいているものですか。

同じ項目が小学生用にもありますが、「育児不安の要因について」の分析には使われていないということですね。どれくらいの方が不安を感じているのか、全体の単純集計を振り返ってみましたが、不安を持っているかどうか、端的に聞かれているので、問11が基本であると思います。ここで、「楽しい」「とても楽しい」と答えていない人が育児不安を持っているということで分析が進められていると思いますので、母数としては少ないと思います。意外と負担を感じている人が少ない印象を単純集計では感じました。全体の問題としてはありますが、感じたことを是非ご意見、ご質問等いただければと思います。

(委員)

これだけの分析結果を見たことがないのですが、60%以上の回収率の残りの40%以下から、色々なものが見えてくるのではないかと見せていただきました。「5 現状分析による課題の仮説検証」の「3、支援が必要な子ども・家庭の増加」ということで、片

親家庭やひとり親家庭と言われていました。アンケートの就学前児童用の中で配偶者関係についてで、配偶者がいる方が 1,686 名、配偶者がいない方が 119 名、事実婚である方が 13 名とあり、個人的な感覚としては、ひとり親家庭はもっと多いと感じているところもありますが、幼稚園の場合は比較的少ないかもしれませんが、保育園に行かされている方等、もっといると思います。この数が 10 分の 1 くらいならこれも課題として色々な部分が正確になると思いますが、ひとり親家庭がある意味、リスクを負っていると考えるなら、この数字の関係について教えていただきたいと思います。

(会長)

十分なお指摘をありがとうございます。

配偶者がいる、いないについて全国的なデータはあるのでしょうか。感覚的にと言われましたが、少し低いという印象を持たれたということです。この課題は仮説のところ、支援が必要な子どもでリストとしてあがっているのであれば、この部分を調査で、どこまですくいあげられているのか慎重にみていく必要があるのではないかと、それが配偶者がいる、いないという数字をどこまで反映しているか留意してこの数字をみなければいけないのではないかとこの意見だと思います。事務局はどのようにお考えですか。

(事務局)

サイレントマジョリティかしんどい家庭なのか混合している層だと把握しています。小学生用の単純集計に、変数としてリスクのある家庭の把握と他の設問との相関関係を図ろうと市単独の項目をあげています。正直、もう少しあるかと思っていましたが、ここで数字そのものが困っている、困っていないと回答しているところが実際の対象の世帯で、あてはまらないところがそれ以外の世帯だと思います。ここの数字を受けて、全体を反映しているとは言い難いですが、なんらかの形で回答をされなかった層にリスクのある家庭が多いと推測できると思います。しかし、実際に回答していただいている限り、分析に反映することができないので、今後分析していく中で実態とかけ離れている感じをどう織り込むか、最終的な事業計画に反映することができると考えているので、アンケート調査の分析は、きちんと行い、計画に織り込むときに、どのような実態を踏まえた計画づくりをしていくのか、委員の皆さんのご見識を織り込めればと思います。よろしくお願ひします。

(会長)

ありがとうございます。データに表れてこない部分で、日ごろ考えて重要だと思うリスク家庭の問題は、なかなかデータには出てこないで、その辺を委員の皆様からの色々なご意見をいただいて計画づくりに反映しないと、逆にリスクのない家庭のためだけの計画になってしまうと、本来の趣旨と変わってしまうので、数字に表れていない部分で感じているところを出していただくことが今後重要になると思います。どの点からでもいいのでご意見をいただければと思います。ご発言いただけていない委員さん、発言していただくことがあればお願いします。

育児不安の子育てをつらく感じている人の傾向で有意差があり、普段考えていることを裏付けるような結果が、はっきりと出ていて興味深いと思います。特に象徴的なものが、母親の意識・価値観の「インターネットで情報収集している人ほど子どもの

病気・発育に不安を抱えている場合が多い」というものです。色々な情報があり、便利になっていますが、実は、どの情報を選べばいいか分からないということで不安になってしまう状況ではないかと思いつながり見ていました。やはり、このような結果が出ているのかと思いました。もう一つ、タイプの中にはないのですが、経済的な問題は不安の大きな要素だと単純集計では出ていましたが、経済的な問題について、ここでは取りあげられないのかということと、どこに出てくるのかと感じました。事務局でお答えいただけますか。経済的な面は出てきませんか。

(事務局)

家庭の収入が不安定だという考え方が一転、社会的支援の中で行政が手当を支給するという経済的な支援、おそらく、経済的支援の不安の部分について分類が、将来の子育てに、多くのお金を必要とするので不安であるという部分だと、③家庭関係に入るのか、③、④でこの辺の分類が経済的な問題について分かれてくるのかと思います。

本日の資料は、間に合う予定ではなかったのですが、間に合わす形で議論を深めていただくために急遽作っていただきました。経済的な部分は、分類の仕方で2種類あると思います。どこのタイプに入れていくのか、逆に違う要因として、しかし、育児不安の要因としての分類の中には経済的な部分が大きくありそうですが、少なくとも、分類からいくと違うと思いますので、タイプ5等にしていく方が好ましいかどうかを含め、事務局サイドで検討させていただきます。

(会長)

ありがとうございます。私からは感想を言わせていただきましたが、是非、皆さんからその他ご意見をいただければと思います。

(委員)

昔から子どもの教育に関しては、かなり経済的な負担を背負ってきたと感じています。福祉の関わりでいうと、ゴールドプランが福祉政策で出たときに高齢者に対してのお金の使い方と、子どもに対してのお金の使い方のバランスが崩れているのではないかという指摘が当初からありました。色々なところから出てくる数値などを見ると、女性が育児に対する負担を背負ってきました。私達の世代は、大学を出てもゼミの教授から就職よりも結婚を勧められるようなことがたくさんありました。それを押し切って頑張ってきた人達は、自分たちで足を運び、就職先を探し、頑張ってきた人達だと感じています。自分の職業を持ち、結婚をし、子どもを育ててきましたが、その子どもが今まさに10代の子どもを育てている世代であります。この世代の人口の減り方をみると今の10代の人達が出産をする10年後の人口を考えるとすごくゾッとします。日本の社会が保てるのか、考えたくないと思うことが正直なところです。私達は、地域の中で安心・安全な社会を作りましょうと、簡単に言葉では言いますが、安全はハードや法的な部分できちんと守られていくべき環境ではないかと思います。安心については、その人の気持ちに関わる問題なので、安心なまちを作るということは、並大抵のことではないと考えます。子どもに経済的な負担を感じているということはこれからの出生率にも関わってくる問題ではないかと思います。

(会長)

大変重大な問題です。経済的な問題を解決していくには行政的な施策も重要になると思います。経済的な負担をどれだけ軽減できるかは、大きな問題になると思います。ようやく、子育ての方にお金を割いていこうという風潮が出てきましたので・・・。

(委員)

こういう会議ができたことが、遅まきながら出てきたのではないかと感じています。

(会長)

これから少しずつ、この計画で変えていく側面もあると思います。子育てにもっと施策を充実させていくことが重要になっていくと思います。

(委員)

今の意見で非常に考えるところがありました。安心ということにおいては、「いくらあれば安心」というものはないのではないかと思います。巨額になれば逆に不安になるし、気持ちの問題といわれた「気持ち」は、どこで支えるか、誰が支えるかが、子育て支援の中で必要ではないかと思います。

私も母親の経験がありますが、親になるのは突然です。妊娠したら、10か月後には子どもが産まれます。子どもがおなかにいるときは「母親教室」などがありますが、実際的な「お風呂の入れ方」や「離乳食の作り方」など、子育てをしていく上での意識や心構えであり、母親は、色々な風に考えてかなければいけないので、実際に子どもが産まれた後に、育児書やインターネットで調べるようなことを学べ、相談でき、話し合える、愚痴り合えるような場が、子どもの心を育てる親の心を育てていると思います。

実際にこの結果からみて取れるのは、悩んでいても誰も相談する人がいなかったり、相談できても明確な答えがなかったりということから必要以上に不安になっていき、そこにお金もないことが、よりのし掛かってくる、なかなかそこから抜け出せないとなると、母親の親になるための教室などがあるといいと思います。時代が変わっても、子どもが大きくなる年月は変わらないので、同じ悩みがあるのではないかと思います。この計画では「ほめて育てる」「ポジティブに」などきれいな言葉が並んでいるので、叱ってはいけないのでしょうか。しかし、日々叱ることは山ほどあります。ちゃんと叱ることを教えるところはどこにあるのでしょうか。現実には即したことを学べ、誰かが答えてくれる場が必要ではないかと感じます。

(会長)

ありがとうございます。重要なお指摘だと思います。安心という言葉の中には気持ちの問題が大きいので、気持ちをどう支えるか、その支援のあり方をしっかり考えていく必要がある。また、親になるための教育という言葉が言われました。象徴的な言葉だと思います。いきなり親になると心が付いていけないということは、私自身にも経験があります。徐々に親になっていくときに、相談に乗ってくれる人、愚痴を聞いてくれる人などという場、人が必要になるのではないかと、そのようなことが子育て支援の施策を考えていく上で重要視していく必要があるのではないかとのご指摘です。

その他ありますか。全体を通してでも結構です。調査結果以外のポイントでも構いません。是非ともご発言いただければと思います。

(委員)

親のサポートについて色々出ていますが、アンケート結果から子どもを育てている間に自然と身につく部分もあります。自分自身の経験からも一人目はお風呂に入るときも神経質になり、温度計で測っていたことも、二人目になると手で温度を確認することができます。色々な部分で、経験でできることがあります。そうではない部分をサポートしていくシステムが必要だと思います。結果を見ると、就学前児童用、問 13、小学生用、問 13 を見ると、小学校に入るまでの幼稚園、保育園の役割、小学校に入ってからは小学校の役割がウェイトを占めていると思います。子育て支援センターや保健センターの活用の割合が非常に低いというのは、折角いい施設がありながら活用されない部分を、今後このような施設を NPO 含め広く広報していくことが必要ではないかと感じています。

(会長)

保育園・幼稚園の役割は、物理的な支援だけでなく、心の支えの部分でも大きな役割を果たしているのだということがわかります。就学後は学校がその役割を担っていると数字からもわかります。一方で、子育て支援センターの利用率が低いということは、子育て支援を看板にしているのに、そこを上手く利用できるようにしないといけないと思います。地理的な問題もあると思いますが、どのように利用しやすい施設にしていくか、難しいと思いますが、工夫が必要だというご指摘です。非常に重要な指摘だと思います。その他ありますか。

(委員)

自分では重要だと思っていても、できていないことを、反省し、また自分自身が世の中に対して協力的でないことも考えると、子のお手本になれていない自分自身がすごく嫌だと思います。親が見せてこそ、子ども自身も頑張ると思います。読書等でも、親自身がしていないと、何故、自分だけが読まなければいけないのかという意識が高いと思います。親の認識力を高めるためにも、教育的なセミナーなどを開いて、安全で、立派な子に育てられるような知識を吸収できるようなものを開いてほしいと思います。

(会長)

ありがとうございます。やかましく言っても、子どもは親が何をしているか見ていますので、口で怒られるよりも、親が何をしているかが大事だと思います。親自身が、どのような生活を送るかが大事なのではないかと、いうご指摘とお聞きしました。そのために、親自身を元気付け、育てる機会がかなり重要になってくるのではないかと、いうご指摘かと思えます。これも非常に重要な指摘だと思います。

(委員)

先ほど子育ての不安とひとり親家庭というところの中ですが、問 10 に「日ごろお子さんをみてもらえる親族」の中で、祖父母の方にご協力もしくは友人などを含めての協力体制が比較的多いのではないかと思います。母子家庭、父子家庭であっても、協力体制の有無の違いが子育て感のしんどさや負担感の軽減になるのではないかと思います。問 12 ですが、就学前児童用と小学生用では若干内容も異なっていますが、その中で就学前児童用の中でもそうですが、保護者同士の付き合いが難しいと回答さ

れている方が、配偶者、パートナーの協力が少ないとほぼ同じくらいかと思いますが、緊急時もしくは、用事のあるときに見てもらえる友人・知人がいるという回答がありながらも、保護者同士の付き合いの難しさを感じている方がいるということです。

学校関係者の大人の規範としての役割のところと、八幡市の保護者の方の部分と 102 名と 1,800 名と調査数も違いますし、学校関係者、社会教育の方がどのような方かということもあり、意識の違いがあるのかと思いました。モンスターペアレントとかありますが、お子さんを預かり、いい部分もありますが、その辺の付き合いが難しい、今は、公園デビューすること自体も恐怖を感じる等、子どもの最初の社会的な場としての母親同士の付き合いも難しくなっています。初めて親子でふれあい、子育ての悩みを共有する場が必要なのかと思います。私どもの園でも園開放を行なっていますが、児童館も含め、皆さん色々なところに、常に行かれて、そのような場を求めていると思います。先ほど、幼児期と小学生以上で子育て感の自信をどこでつけたのか、という意見がありましたが、3歳、4歳では言葉の発達もまだで、コミュニケーションも保護者でも、わが子が何を欲しているのか理解に苦しむところが、段々と就学後に子ども自身が育つことにより、子育ての負担感が減ることと子どもの社会性が広がるということで、親も安心して一歩引いて子供を見つめることができるのかと思います。小さいころは健康に育てほしい、友達と上手くやっていけるかということが最初の心配のポイントで、子どもの成長につれて、学習面や自立性、人間性等に願いや期待値が変わってきて、不安感の軽減もあるのかと感じました。

(会長)

ありがとうございます。一つは保護者同士の交流が難しくなっているため、そのような場をどう作っていくかということが、すごく大事になってきているのではないかという意見です。

もう一つは、「なぜ就学後に自信がついたのか」について分析をしていただきました。子ども自身の成長に伴い、親の負担感も変わってくるということも、自信がついたことの一つの要因ではないかという分析の一つをしていただきました。

(委員)

先ほど、どこで自信がついたかという疑問を投げかけましたが、私は、自信がついていないという判断を基に申し上げました。なぜならば、子どもの子育ては、一人で食事をとり、一人で排泄をし、友達と遊べるようになることで安心してしまっただけは、本人の人生にとっていい子に育つために、小学校、中学校、高校と自立心が育つときに親がどれだけ関わるができるかが重要だと考えるからです。私は、人材育成の仕事をしていますので、昔、子どもだった大人と付き合っています。本当に関わり合いが必要なのは、小、中、高の自分で動けるようになってきた子ども達で、よほどひどい記憶でない限り、幼稚園の記憶を覚えていて心の傷にしている人は多くはありません。しかし、小学校、中学校、高校の中で大人との関わりが肯定されなかったがために、「大人になっても自信がない」「大人になっても自分で判断できない」という大人がたくさんいます。自分でご飯を食べるようになった、一人で学校に行けるようになったから大丈夫と、大人がみてしまうことの危険性を思いますので、敢えて苦言を申しますと、安易に自信を持ってしまうことの怖さを感じるので、これからが大事な

関わりであることを含めて、教育の研修やセミナー等を実施していく中でサポートしなければいけないのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。結果をどう見るか、重要な視点だと思います。自信がついたという数字が高かったのですが、ついていると捉えるのが一般的ですが、自信はついていと思うけど、それでいいのかというご指摘です。そんなに簡単に自信はつくものではなく、就学後の関わりが非常に重要になることを考えれば、安易に自信を持つことは危険ではないかというご指摘です。

(アドバイザー)

きれいな統計がなかったのですが、母子家庭、父子家庭の、子どもがいる3世帯以上ではない世帯に対する母子家庭、父子家庭の割合は10%くらいです。京都府は30位で、かなり少ない方です。1位は沖縄で、沖縄は京都府の倍くらいが現状です。また、離婚率が今、非常に高まっている傾向があります。

ベネッセで調べた調査で「子どもを産んだときに始めて赤ちゃんに触れた」という人が、50%という衝撃的な数字が出ています。半分くらいの方が、自分が子どもを産むまでは、赤ちゃんに触れたことがないということで、2年ほど前の調査ですが、多分それが実態かと思います。少子化により親力が確実に下がっています。昔と違い、周りに子どもがいないので、環境自体が変わってきているため、小さいときから子どもと接してきた、ある程度大きくなったときに子どもと接してきたという環境自体が圧倒的に少子化で減ってきているという実態なので、親が悪いのではなく、世の中の構造が変わってきていることを大前提として考えた上でやらなければいけません。

また、晩婚化は女子の短大卒比率が2倍に上がっているところがあり、やはり自分らしくいきたいというところと親にもなりたいという気持ちがあると思いますが、晩婚化しています。高齢出産に近くなると子育て不安は高くなります。一方、若くして出産すると不安度が少なく、言い方は悪いですが、おもちゃ的に子育てをするような世帯に分かれてきているところも、世の中の構造、と実態としてあると思います。今の親に頑張りなさいということも必要だと思いますが、現実、頑張れない環境になってきているところがあるので、子育て自体を親だけでなく、祖父母や地域などの単位で考えていかないと、アンケートに出てこない方の声が救えないということが社会構造として起こっています。世界を見たときに、日本は親だけに子育てを任せています。片親で祖父母に頼らずに自分達で働いている7割くらいの数字がありますが、世界で見ると、平均8割くらいですが、子育てをしている親に対して優しくないということが今の日本の実態かと思います。人口減や少子化は10年くらいでは解決できない問題になってきているので、この傾向は10年くらい変わらないと思います。

(会長)

もう少し早く聞きたかった話です。すごく重要な根本に関わる話で、どうしても「親がもっとしっかりせい！」という議論があります。施策的にも家庭の責任として法律からもいわれるようになっていきます。勿論そうですが、社会構造が許しません。そのような状況にない親が多くなり、自分の子どもが産まれるまで赤ちゃんに触れたことはない状況の中で親も育ってきていますので、それを踏まえた施策をどう展開するの

か、これから重要になると思います。

4 閉会

(会長)

本日議論をいただきたい内容の議論をしていただきました。

事務局より今後の予定を含め、連絡事項等ありますか。

(事務局)

前回の会議の議事録については、八幡市のホームページに掲載していますのでご覧ください。次回の会議は3月頃を予定しています。

(会長)

今日いただいたご意見を踏まえて、どのような計画を立てるかという議論になるのでしょうか。

(事務局)

3回目の会議は、計画の骨子まで進めたいと思います。今日いただいたご意見の内容を踏まえ、分析をさせていただきたいと思います。分析結果を踏まえて骨子の形までできて、今後は具体的な取り組みを議論していただく形になりますので年度内に計画の骨子作りまでいきたいと考えています。

(会長)

そのような予定ですのでよろしく申し上げます。これで第2回の子ども・子育て会議を終わらせていただきます。